

目 次

はじめに

第1章 批判開発学とグローバル・ベーシック・インカム構想 I

- 1 批判開発学とは何か? 1
——人が造り地球と人を壊す仕組みの中の私を問うこと
人が造り，地球と人を壊す仕組み (1) / 仕組みの中の私 (3) / 私を問うこと (6)
- 2 グローバル・ベーシック・インカム構想とは何か? 7
——ベーシック・インカム要求を活かすためのグローバルな階級支配システム転換の見通し
ベーシック・インカムと正義の理念 (7) / グローバルなベーシック・インカムの理念 (13) / グローバルなベーシック・インカムのある人類社会のビジョン (15) / ローカル，ナショナル，リージョナルな多層的ベーシック・インカム (17)
- 3 本書の構成 18
本書のねらい (18) / 本書の構成 (19) / 川で溺れる赤ん坊の比喩 (23)

第2章 内発的发展・連帯経済戦略始動のために会社法人の禁止・解体を! 25

▶デイヴィッド・コーテンの経営学

- 1 問題提起 25
——SDGsを先取りする主流派開発戦略の徹底批判と全面的対案
- 2 内発的发展の定式化 27
1990年代の主流派批判と対案の構図 (27) / 内発的发展戦略の定式化 (30) / 内発的发展のための変革の課題 (33)

3	連帯経済の市場理論	35
	1995年の転換——グローバルな会社システムの発見 (35) / 1999年の転換——生活世界に根ざす「心ある市場」の発見 (38) / 「心ある市場 (Mindful Market)」論 (40)	
4	対案実現への模索——ベーシック・インカム	45
第3章	地球と人間を守る大規模開発援助を主導する アメリカを！	47
	▶ジェフリー・サックスの経済学	
1	問題提起——援助の「ビッグ・プッシュ」提案とその挫折	47
2	政治改革の提起	48
3	階級支配の告発	51
4	公共圏活性化への模索	55
第4章	脱開発の世界秩序再編を主導するEUを！	63
	▶ヴォルフガング・ザックスの社会学	
1	問題提起——脱開発の世界秩序への模索	63
	地球生態系への脱開発アプローチ (63) / 自動車への愛を超える欲望 (64)	
2	ヨーロッパへの期待	65
	アメリカに対抗し、フェアな未来をリードするヨーロッパ？ (65) / EUを蝕む力 (68)	
3	ベーシック・インカムへの注目	70
	賃金労働は公正か？ (70) / 負の所得税に支えられた第二労働市場創出提案 (72) / ベーシック・インカムの階級的基礎 (75)	
4	グローバル・ベーシック・インカムの断念	77
	グローバルな公正とベーシック・インカム (77) / 賃金労働に内在する不公正 (79)	

第5章 グローバル企業権力を制御できる国家を！ —— 83

▶スーザン・ジョージの政治学

- 1 問題提起——啓蒙から階級戦へ 83
ベトナム反戦運動から反飢餓・反債務運動を経て反グローバル化運動へ (83) / グローバル企業権力の担い手, ダボス階級 (83) / 深刻な反省 (86)
- 2 ダボス階級の手口 87
征服, 戦争, 飢饉, 疫病を活用する (87) / グローバルなアパルトヘイト政策 (88) / 啓蒙主義の弱点とプロパガンダの強さ (89) / EU における上からのクーデターと「社会民主主義」の無力 (90) / 倫理問題の重要性 (92)
- 3 ウォール街占拠運動の総括 93
- 4 人権, 民主主義, 福祉国家, 格差是正を求めて 96

第6章 グローバル企業権力に翻弄される人々よ団結せよ！ —— 100

▶アントニオ・ネグリの政治哲学

- 1 問題提起 100
——直接民主主義と自由な共同体のためのベーシック・インカム
細分化した学問分野を統合する政治哲学 (100) / 『帝国』におけるベーシック・インカム (100)
- 2 社会運動的労働運動の鍵としてのベーシック・インカム 103
『マルチチュード』におけるベーシック・インカム (103) / 『社会主義よ, さようなら (Goodbye Mr. Socialism)』 (105) / 「目覚めよ, コミュニズム」 (108)
- 3 改良主義的要求としてのベーシック・インカム 111
——『コモンウェルス』におけるベーシック・インカム論の修正
- 4 革命に向けた交通整理 115
ネグリらのベーシック・インカム論の意義 (115) / ネグリらのベーシック・インカム論の難点 (116)

第7章 国民国家群を操るグローバル企業権力の姿を暴け！ — 120

▶ グローバル資本主義学派の国際政治経済学

- 1 問題提起——人類社会を分断する国民国家の罟を見抜く 120
これまでの議論の中間総括 (120) / グローバル資本主義学派 (121)
- 2 巨大多国籍企業、国際政策団体、主要国政府におけるトップ・エリート集団の一体化 122
兼任重役と政策団体の人的ネットワーク (122) / ウィリアム・キャロルの実証分析の成果 (123)
- 3 トランスナショナル資本家階級形成論 129
レスリー・スクレアのトランスナショナル資本家階級論 (129) / キャロルによるトランスナショナル資本家階級分析の集大成 (131)
- 4 トランスナショナル国家形成論 132
ウィリアム・ロビンソンのトランスナショナル資本家階級形成論 (132) / ジェリー・ハリスによる国民国家を越える経済的階級支配システム論 (133) / ウィリアム・ロビンソンによるトランスナショナル国家形成論 (137)
- 5 結論——支配階級の再編成を一步進めてシステム転換へ 139

第8章 地球と地球人を守る非暴力の闘いを！ ————— 142

▶ 『アジェンダ 2030』における国連SDGsの開発思想

- 1 はじめに 142
- 2 『アジェンダ 2030』における地球防衛戦争の論理 143
5つのPの調和を核とするエコ・ヒューマニズム (143) / 5つのPの相互関係 (145) / 誰一人取り残さない (147)
- 3 SDGsが掲げるビジョンと現状認識 148
SDGsの目指す世界像——国民国家の枠を超えるが歴史的不正義と多国籍企業には沈黙 (148) / 人類社会についての現状認識 (153) / 希望はどこにあるか？ (156)
- 4 『アジェンダ 2030』の開発思想の意義と限界 158

第9章 人類社会の未来図とグローバル・ベーシック・インカム構想 160

- 1 はじめに 160
- 2 犠牲者数から見た地球防衛戦争としてのSDGs 161
地球防衛戦争の犠牲者推計 (161) / 地球防衛戦争における死亡者数の推計 (162) / 地球防衛戦争における被害者数の推計 (163)
- 3 地球防衛戦争下のコロナ・パンデミック 168
 - A 国連にとってのコロナ・パンデミック 168
人類の危機に際しての責任と連帯の呼びかけ (168) / コロナ・パンデミックとの闘いからSDGs達成の闘いへ (169) / コロナ・パンデミックの副産物としての環境浄化の皮肉 (170) / SDGs達成のための投資行動の転換 (171)
 - B コロナ・パンデミック対策から地球防衛への機運 171
コロナ・パンデミック対策からのベーシック・インカム政策の形成 (171) / UNDPと世界銀行のベーシック・インカムへの転回 (172)
- 4 SDGsをめぐる対立の構図——地球防衛か、宇宙開発か？ 173
 - A SDGs市場を目指す多国籍企業——SDGsコンサルタント狂詩曲 173
 - B 宇宙開発というオプション 175
宇宙企業集団の形成？ (175) / 宇宙ビジネス展開の論理 (176)
 - C 国連のエコ・ヒューマニズムと地球防衛戦争の課題 178
地球防衛戦争の敵＝侵略者の姿 (178) / SDGsはエコ・ヒューマニストのトロイの木馬になれるか？ (178)

注 記 (181)

文献目録 (225)

あとがき (243)

初出一覧 (246)

人名索引 (247)

事項索引 (248)